

サンゴ礁に囲まれた南の島・採集記

苦 木 隆 幸

年中蝶の舞う、亜熱帯の島々、八重山、私が蝶採集を趣味の一つに加えてから、最も行きたいと思っていた採集地であった。頭の中のイメージとして遠い南国会社勤務の身では容易に行けるチャンスが得られないと考えていたが、思い切って一度チャレンジしてみると以外に近づく。朝大阪空港を飛び立てば昼過ぎには石垣空港に着き、その日の午後から採集が堪能できる身近な感じを持ってから、2年の間に4回ハイビスカスの歓迎を味わうことができました。

それは、4月中旬の石垣島 4日間

10月初旬の石垣島及び西表島の 4日間

6月下旬の石垣島及び西表島の 4日間

5月中旬の石垣島及び竹富島の 3日間

であります。

合同の採集記はそのうちの3回目と4回目を思いのままに綴ってみたい。

3回目の採集行

メインはカンピラの滝とその道中を探訪したい。

採集種の目標は、1) リュウキュウウラボシ

2) タイワンキマダラ

3) イワカワシジミの幼虫

1987年6月24日

梅雨明けの太陽が容赦なく照り付け暑いこと真夏並みである。石垣空港13:00着の飛行機であるから、夕方までたっぷり時間はある。パンナ岳へ車を走らせてスミナガミをねらう。

バンナスカイラインの展望台を過ぎ北側斜面の下り途中で環境のよさそうなところを発見し、腰をおちつけて飛来して来るのを待つことにした。

次々と10分間隔ぐらいでやって来て葉の先端に止まるので簡単にネットインすることができた。

☆成果 スミナガシ 7頭

翌日、9時 石垣港発 西表島船浦港行きのジェット船に乗り込む。あいにく風が強く、欠航するのではないかと心配したが、台風以外では欠航しないと聞いて、ひと安心。ルンルン気分に乗っていると、途中まで走ったところで波が高いので船浦港の入口を通過するのが、困難だからだめ。大原港に行先を変更する

旨伝達があり簡単に行先変更である。

私にしてみれば、到着港が南と北ではおお違いで予定は大幅に修正せざるを得なかったが、島の人々は何も言わずに、OKである。

のんびりとした南国の土地柄に接し、長寿の秘訣を教えられたようで、思わず苦笑。しかし現実には笑ってばかりではいられない。予定より約30kmも遠い港に着くので大変である。西表島へ行けないよりは、良しと考えあきらめることにした。

カンピラの滝の下流の浦内川の河口についたら、浦内川を上る定期船は出るが、帰りの船は午後2時発で終り（シーズンオフのため）。別便を仕立ててもらわないと帰れないと言う。秘境とは不便なところに価値があると納得をして、カンピラの滝へ……。

ボートで20分程上流に上ったところに自然岩で出来た船着場がある。そこから滝までの細い自然道の部分、部分に採集のポイントがある。約40分程の道のりではあるが、蝶の姿はほとんど見られなかった

滝の近くに細い沢が本流に流れ込んでいる処があり、繁った木の葉から夏の日がもれ、昼なお暗い樹々の間を幻想的に浮び上がらせる。そんな時、遠くにハエが飛びかうように舞っている、リュウキュウウラボシシジミを発見、次々にネットイン。苦勞の多い採集となったが目的達成である。

☆成果 リュウキュウウラボシシジミ 4頭
タイワンアサギマダラ

帰りの道中に月ヶ浜へ タイワンキマダラのポイントである。小さい範囲内であるがポイント内の小道を何回も往復し、林の中から道に出て来たのをゆっくりとネットイン。

☆成果 タイワンキマダラ 20頭

翌朝。クチナシの木を求めて歩いたが西表島にはクチナシは少なく、やっと見つけた木は実に大穴があいていて時すでに遅く、イワカワシジミは、お目にかかることなく第3回目の八重山の旅は終る。

第4回目の採集行は、突然3日間の仕事の空間が出来た。即出発である。思えばアサヒナキマダラセセリの活動の時期と合致するではないか。

アサヒナキマダラの調査に焦点を定め1988年5月18日機上の人となる。

南の島は梅雨の最中で晴れの確率は少ないが、行ってみないとチャンスは得られない。

4回目ともなると不安などどこにもない、石垣島の地形の1つ1つが計画の中に適確に浮上して来る。

民宿に到着すると3人の蝶屋さんの先陣がいた。様子を聞くとアサヒナキマダラの発生は少なく、しかも天気の悪い日が続くので、興味が薄らぎ、もっぱら迷蝶を追っかけているとのことであった。直近の情報は得られず翌朝を待つ。

朝の天気はぱっとしないが初志貫徹。下界は薄日がさしているが梅雨期独特の雰囲気。どんよりとし、目ざすオモト岳は雲の中。「よし」と言う気になれない不満な天候である。

車でオモト岳の登山口へ、車を下りるとショボショボと雨が降っているが、下界は薄日がさしている。標高525mの山頂へアタック開始。

昼なお暗い登山道を1人もくもくと歩く、暗く夜明けの山道のように気持ちの良いものではないが、私には目標がある。この気持ちが何もいない70分の道程りを勇気づけてくれる。

ガスに包まれた山頂へ到着。食草のリュウキュウ竹が無造作に風にゆれているのが印象的である。

視界200m 霧雨まじりのコンディション。山頂にあるNHKの鉄塔のそばでリックを背に休んでいると、アサギマダラが風に乗って2頭、3頭と流れて行く。待つこと1時間、11時頃霧をはらって薄日がさす。アサヒナの姿などどこにもない。探し求めて頂上を動きまわっていると、東斜面の空間に日だまりのようになってアカタテハが羽を休めている良いポイントに遭遇した。周囲1面リュウキュウ竹の林である。すべての条件が整っていないことはない!!待つこと久しである。

一寸した晴れ間にどこからともなく現われては飛び去るアサヒナキマダラセセりに面会することができた。目標達成である。

☆調査 アサヒナキマダラセセリ 数頭

翌20日には、民宿に同宿した蝶友と竹富島へ。しめった梅雨の太陽が容赦なく照り付ける防風林の道の道をネットを肩にあてもなくさまよう。スジグロ

カバマダラが、何百、何千頭と発生し、ネットを振る気にもならない。そんな中にスケカバとか言うのが1つ2つと混入している。魅力ある蝶でもないがと思いつながらネットイン。村落の垣根の草花には、シロオビアゲハが、まさるともおとらず、へばりついている。何んと蝶の多い島かと感心するばかりである。

そんな中に迷蝶が混入していてラッキーにもネットイン。一途に迷蝶を追っている人には何んだか悪い感じもしたがラッキーとはこんなものかと……。暑い5月の旅は大成果のうちに終る。

☆成果 スケカバ (スジグロカバマダラの翅のすけたもの) 2頭
コウトウマダラ 1頭

次は、いつ、何を。と思いをはせながら……必ず又行くことを誓って報告を終ります。

Takayuki Nigaki 姫路市

ウスイロヒョウモンモドキの多産例

近 藤 伸 一

岡山県新見市草間台地で採集したウスイロヒョウモンモドキが、1986年6月23日から7月6日にかけて9卵塊1,842卵を産卵した。母蝶は6月22日採集したもので、プラスチック製の水槽に水さしのオミナエシを入れ、日のあたらない窓際で飼育した。6月中は砂糖水を、7月からはカルピスを1日1回母蝶に与えた。最初に産卵された卵は約2週間後に黒点があられ、翌日には変色し、その後一部は孵化したが、ほとんどは卵から脱出出来ずに死亡し、孵化した幼虫も葉に食いつくことなく死亡した。残りの卵もほぼ同様の経過をたどった。

産卵の経過			
6月23日	180卵	6月29日	196卵
24日	241卵	30日	151卵
25日	278卵	7月2日	173卵
27日	294卵	6日	176卵
28日	153卵	11日	母蝶死亡

総産卵数 1,842卵
Shinichi Kondo 神戸市